

# リバースコート仕上げ

国土交通大臣認定防火材料  
認定番号 NM-4253 (不燃材料)

リバースコートの効果を最大限発揮できる、リバース工法の標準内装仕上げ。液体顔料による調色や、塗装用下地クロスによるパターン付けが可能です。

## 施工手順

(1) 壁面よりも飛び出たビス頭などはしっかり打ち込んでおきます。

リフォームの場合など、施工面がヤニやホコリで汚れている場合は、濡らして固く絞ったタオル等で拭き取ってください。汚れがひどい場合はリフレパウダー希釈水を使って拭き取ってください。

(2) 石膏ボードの継ぎ目にメッシュファイバーテープを貼ります。

施工後の目地部のひび割れ防止効果があります。塗装用下地クロスを張る場合は不要です。

(3) ボードのつなぎ目、ビス頭などの凹凸や段差をパテで埋めます。

パテ練りには P.28 の練り水をご使用ください。  
パテ乾燥後、紙ヤスリで平滑な面を作ります。段差が残っている場合は平滑な面ができるまでパテ塗り→ヤスリがけを繰り返してください。

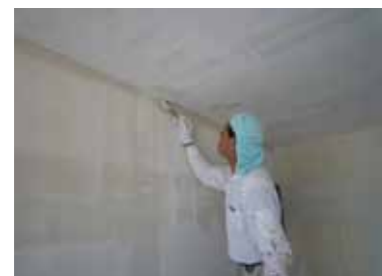


(4) パテの粉をよく落とし、リバースでん粉糊で塗装用下地クロスを張ります。

下地クロスを張らない場合、パテ処理部分に必ずリバースシーラーを塗り、よく乾燥させてください。

(5) 下地が見えなくなるまでリバースコートを複数回塗布します。

ローラー塗布のほか、エアコンプレッサーによる吹き付け施工も可能です。



入隅や窓周りなど、ローラーが届かない箇所は先に刷毛で塗ってください。



下地が見えなくなるまで複数回塗布してください。



塗装用下地クロスを使う場合は種類に応じて塗布回数を調整してください。目安は2~3回程度です。



吹き付けの場合は、目の細かいストッキングなどを使ってリバースコートを1回濾してから施工します。



エアコンプレッサーで吹き付けるスプレーガンを用意します。上の写真は塗料用でキャップを外すタイプです。



上部から注ぎ足すタイプ。作業性が良くメンテナンスも容易なため、吹き付けにはこのタイプが最適です。

## 注意事項

- 必ず養生してから施工してください。  
乾くと落ちなくなるので、衣服や床などに付着した場合はすぐに水洗いするか拭き取ってください。
- 塗布作業中はこまめに攪拌し、珪藻土が沈殿しないようにしてください。  
リバースコートは液体と珪藻土との混合物ですので、比重の違いで珪藻土の方が早く沈殿します。攪拌を怠ると珪藻土が沈殿して液体だけを塗布することになってしまい、**リバースコートの効果が十分に発揮されません。**  
また、攪拌が不足するとシーラーが沈殿して塗布量が不足するため**接着力が低下**します。リバースコートを塗った壁面がポロポロと剥がれる原因にもなりますので、攪拌は十分に行ってください。**別容器に小分けする際も必ずよく攪拌をしてから移してください。**
- 重ね塗りする際は先に塗ったリバースコートが乾いてから塗ってください。  
乾かない状態で重ね塗りすると剥がれてくる場合があります。
- 塗布時に下地が見えていても乾燥するにつれて白くなります。  
下地が見えているからといって一度に塗り重ねすぎると、乾燥後凹凸が目立ってしまいます。重ね塗りする際は1回の塗布を薄塗りにするときれいに仕上がります。
- 塗布後は風通しをよくして乾燥させてください。  
熱による急激な乾燥はひび割れの原因になりますので避けてください。

## 防火材料認定 (不燃材料) の仕様について

塗り厚 0.3mm\* (±0.1mm) / 基材 (不燃材料 (金属板を除く))

※ローラー塗布で3回程度 (石膏ボードを寝せた状態で塗布する場合)。ボードを立てた状態で塗布する場合は薄塗りにするため、さらに塗布回数が必要です。

## 仕上がりについて

色はホワイト (基本色) / アイボリー (液体顔料で調色)

専用の液体顔料 (リバースコートアイボリーに同梱/右写真) でアイボリー色にすることができます。他の色をご希望の場合は必ず事前にテストを行い、お客様の了解を得てから施工してください。



塗装用下地クロスを張って塗布することでパターン付けも可能

施工が容易になり、仕上がりも美しくなります。下地クロス自体も吸湿性に優れており相乗効果があります。



通常の仕上がり



パターン例1



パターン例2



パターン例3

※仕上がりの色は印刷の性質上、実物と多少異なることがあります。